

令和 7 年度進行管理

戦略点検シート

◎基本政策4 文化的で豊かな共生社会の実現

主要課題	No. 38	誰もがスポーツに親しむことができる環境づくり
------	--------	------------------------

● 4 年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4 年後の 目指す姿	区民のスポーツへの気運が高まり、地域が活性化するとともに、インクルーシブスポーツへの理解が促進され、年齢・性別・体力・障害の有無等に左右されることなく、誰もがいつでも、いつまでも、安心してスポーツに親しめる環境が整備されている。	
計画期間 の方向性	○スポーツに親しむ機会の充実と環境整備 デジタル技術を活用した競技体験など、スポーツ分野におけるDXの推進やニュースポーツの体験事業等により、区民がいつでも、様々なスポーツに触れる機会を提供し、スポーツ気運を継続的に高めていきます。また、施設の維持管理を確実にを行うとともに、インクルーシブの視点も含め、新たな工夫や柔軟な発想により施設の魅力を創出することで、誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整備していきます。 ○パラスポーツ・インクルーシブスポーツの普及 各種事業の展開により、パラスポーツの認知を広めていくとともに、年齢・性別・体力・障害の有無等に左右されることなく、誰もが安心してスポーツに触れることができる要素を事業に取り入れ、インクルーシブスポーツの理解や普及を促進していきます。 ○スポーツ団体等との連携・協働 スポーツ関係団体等との連携について発信を強化し、その認知を広めるとともに、新たな連携により区内スポーツ資源と地域が一体となった魅力的な活動を展開し、地域の活性化につなげていきます。	

事業費（令和 6 年度） 上段：実績 下段：当初予算

1

どのような事業で何をしたか（実績）

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)
26	スポーツ振興事業	スポーツ振興課	スポーツに親しめる環境の整備を図ることにより、スポーツ振興を推進する。							28,779千円
										(45,052千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	
	①	学校でのハンドボール出前授業、ブラインドサッカー体験授業(スポ育)実施校		校	21	25	29			
	②	障害者スポーツ事業参加者数（パラスポーツボッチャ体験、ユニバーサルスポーツ体験等）		人	1,262	952	830			
	③	文京スポーツボランティア登録者数		人	108	60	73			
	④	文京スポーツボランティア事業従事者数（延べ）		人	86	85	202			
	⑤	Bunkyo Sports Park参加者数（延べ）		人	—	8,394	11,253			
R5(2023)	小・中学校へ指導者を派遣しての出前授業を行うとともに、大規模イベント「Bunkyo Sports Park」の開催などにより、誰もがスポーツを楽しみ、親しむことのできる機会を提供しました。									
R6(2024)	ハンドボール、ブラインドサッカーの出前授業を小・中学校で行うとともに、年齢、性別、体力、障害の有無等に関わらず様々なスポーツを体験することのできるBunkyo Sports Park2024の開催等により、誰もがスポーツに親しむ機会を提供しました。									
139	スポーツ施設の環境整備事業	スポーツ振興課	利用しやすいスポーツ施設を整備する。							0千円
										(6,710千円)
	主な取組実績									
R5(2023)	竹早テニスコート第1・第2コートの人工芝張替工事を完了しました。									
R6(2024)	安全で快適な利用環境を確保するため、各施設で小破修繕を実施しました。 小石川運動場グラウンドの照明設計委託について、スケジュールや実施体制等を総合的に勘案し、6年度の委託実施を見送りました。									
●特記事項（実績の補足）										

2 社会ではどのような動きがあったか （社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

3 成果や課題は何か（点検・分析）

1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。

○スポーツに親しむ機会の充実と環境整備

区立小・中学校での「ハンドボール出前授業」の実施や誰でも多様なスポーツを体験することができるBunkyo Sports Park2024の開催等により、区民がスポーツに親しむ多くの機会を提供し、スポーツへの気運を継続的に高めました。また、スポーツ推進委員やスポーツボランティア等、スポーツを支える多くの人が年間を通して様々な事業に参加し、活躍しました。

引き続き、区民が様々なスポーツに触れる機会を提供していくとともに、スポーツボランティア等、スポーツを支える人材の育成やスポーツ施設の整備を継続して行っていくことが求められています。

○パラスポーツ・インクルーシブスポーツの普及

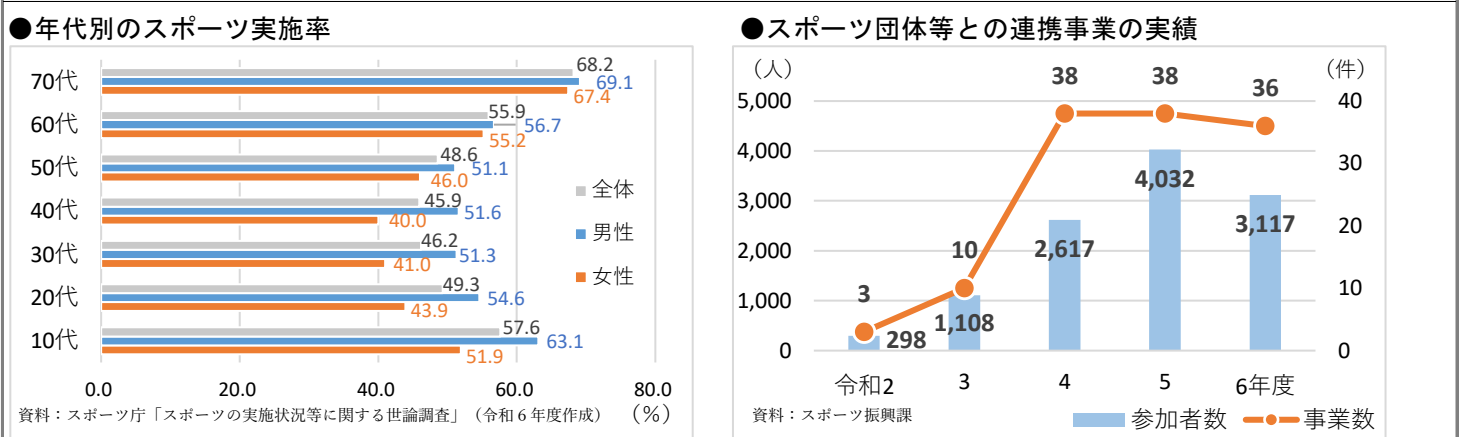
区内まつり会場でのボッチャ体験ブースの設置やパラスポーツ体験会、Bunkyo Sports Park2024でのデフスポーツ紹介等の実施により、パラスポーツの普及啓発を図っています。また、パラスポーツやインクルーシブスポーツの推進を行っている団体に事業補助を行い、パラスポーツ、インクルーシブスポーツの理解・普及を促進しています。

今後も事業を継続し、さらにパラスポーツ・インクルーシブスポーツを普及していく必要があります。

○スポーツ団体等との連携・協働

体育協会および区協定締結スポーツ団体等と連携し、各種区民大会をはじめさまざまなスポーツイベント・教室を開催しています。また、関係スポーツ団体等との連携により、Bunkyo Sports Park2024では野球やサッカーといったメジャーなスポーツだけでなく、ブレイキン、BMX、パラバドミントン、デフ陸上等のアーバンスポーツ、パラスポーツといった多様なスポーツを体験できる機会を提供しました。

今後も区のスポーツ振興を推進していくため、関係スポーツ団体等との連携を深化させていく必要があります。



【SDGsの視点】

3

すべての人に健康と福祉を

Bunkyo Sports Park2024の開催にあたっては、スポーツを行うことで健康を維持し、心身ともに満たされたライフスタイルにコミットすることを目指し、年齢、性別、体力、障害の有無等に関わらず誰もがスポーツに触れることができるよう、多様なスポーツ体験ブース等を設置し、スポーツに親しめるよう努めました。

17

パートナーシップで目標を達成しよう

区内のスポーツに関係する企業・団体とのパートナーシップにより、各々の強みを活かし、様々な種類のスポーツを体験する機会を提供しました。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

区民がスポーツに親しむことができるよう、区立小・中学校での出前授業やBunkyo Sports Parkを継続的に実施していきます。Bunkyo Sports Parkでは、令和7年度に東京で開催される世界陸上およびデフリンピックに関するブース等を設置し、世界陸上で高まるスポーツへの気運の継続とデフスポーツの普及啓発を図ります。

また、スポーツ団体等と連携をさらに深め、既存のスポーツ教室や観戦事業に加え、新たな種目によるスポーツ体験会を開催するとともに、スポーツ推進委員やスポーツボランティア等、スポーツを支える人材を継続的に育成していきます。